

課題名	新型コロナウイルス感染症は生活習慣病関連因子に影響を及ぼしたか？
承認番号	2020-29 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 健診センター 氏名 伊藤 美奈子
研究期間	(西暦) 2020 年 11 月 ~ (西暦) 2022 年 12 月
研究の意義・目的	<p>新型コロナウイルス感染症は人類の生活様式を一変させました。外出自粛要請、テレワークの普及、運動施設の閉鎖などにより、わが国でも人の活動量が減り、その結果、メタボリック症候群の割合が増えている可能性があります。逆に、長時間の通勤が不要になることで働く人の夕食や就寝時間が早まったり、会食の自粛により暴飲暴食が減ったり、コロナ禍以前より健康的な生活を送れている人も多いとされています。</p> <p>コロナ禍の前後で生活習慣病関連因子がどのように変化したかは興味深く、それらを分析することで、パンデミックが人類に与える影響の一部を明らかにできると思われます。人間ドック健診受診者のデータを用いて、生活習慣のうち変化した項目は何か、どのような影響を受けているのかを明確にできれば、生活習慣の留意点が判明し適正な保健指導の提供につながると思われます。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	<p>① 2020 年 6 月～2020 年 9 月に当センターで人間ドック健診を受けた受診者のうち、前年度 (2019 年 4 月～2020 年 3 月) も受けた人 および ② 2019 年 6 月～2019 年 9 月に当センターで人間ドック健診を受けた受診者のうち、前年度 (2018 年 4 月～2019 年 3 月) も受けた人を対象とします。データが欠損している人は除外します。</p> <p>(i) コロナ禍前 (上記②) とコロナ禍後 (上記①) を対象とし、1 回目受診時と 2 回目受診時の身体測定値、検査データ、生活習慣、生活習慣病の変化について 2 群間比較します。変化している項目と変化していない項目を明らかにします。</p> <p>(ii) 上記①の受診者のうち、3 年度連続で受診した人を対象として、身体測定値、検査データ、生活習慣、生活習慣病について、2018・2019 年度と比べて 2020 年度のデータが悪化した群と不変・改善群に分け、他のデータとの関連について分析を行います。</p> <p>上記 (i) (ii) を分析することで、新型コロナウイルス禍が生活習慣病関連因子に与えた影響の有無を解明します。</p>
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む)	<p>本研究に携わるすべての研究者は「ヘルシンキ宣言」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従って本研究を実施します。また、研究対象者の安全と人権を損なわない限り、本研究計画書を遵守します。医学雑誌や学会に発表される場合はプライバシーを保護するために、受診者の氏名、生年月日、住所など、個人を特定できる情報は公表されず外部に漏れることはありません。研究対象者からデータ使用不可の連絡があった場合、その旨を記録し解析には用いません。研究対象者が不利益を被ることがないように留意し対処します。</p>

<p>利用又は提供する 試料・情報の項目</p>	<p>健診結果の情報（年齢、性別、既往歴、生活習慣などの問診内容、身体測定値、検査データ、生活習慣病関連因子）</p>
<p>試料・情報を 利用する者の範囲</p>	<p>本研究に携わる横浜市立みなと赤十字病院の健診センターの職員</p>
<p>試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)</p>	<p>横浜市立みなと赤十字病院 所属 健診センター 氏名 伊藤 美奈子</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 健診センター 氏名 伊藤 美奈子 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101</p>